

乳児期からのペット飼育はアレルギー発症を抑制？

内閣府の統計では、我が国の36%以上の家庭でペットを飼っています。最近、猫の飼育数が犬を超えた様ですが、合わせて2,200万頭以上です。そこで室内という密閉された空間で、長時間ペットと暮らすことにより増えてきたのが「**ペットアレルギー**」です。

これから飼う予定のご家族から、犬猫アレルギーがないのか調べてもらいたいという要望も時々あります。検査で陽性が出た時には買わない方が良いでしょうと言っていますが、それ以上にペットがご家族の精神的な支えになる事もあるので選択は難しいのです。

では子どもが生まれる前からペットがいる家庭ではどうするのか迷います。アレルギー症状の程度にもよりますが、そのまま飼い続けることが多いです。

アレルギーに関しては以前から「**衛生仮説**」があり、乳幼児期に家畜がいる田舎暮らしなど不潔な環境にいた人や兄弟が多いほどアレルギー疾患が少ないと言われていきます。

最近の論文でスウェーデンの大学が乳幼児からのペット飼育が、その後のアレルギーのリスクを軽減するのか、またペットの数とどう関係するかを検討しています。

A地方の7~8歳児(1,029例)へのアンケートによる調査と小児科医により喘息と診断されたB地方の8~9歳(249例)児の出生に関するアンケートによる調査があります。

結果は、生後1年間に家庭内で犬や猫の飼育数が増えるにつれ、アレルギー症状(喘

息、アレルギー性鼻炎、湿疹のいずれか)がより少なくなる**相関関係**がみられています。

A地方ではペットがいない子供の49%にアレルギーがあるのに対して、5匹以上のペットがいる子どものアレルギー発症は0でした。

同様なパターンがB地方でもみられ、花粉だけでなく動物への感作も、家庭内での動物数の増加と共に減少しています。

結論として7~8歳の小児におけるアレルギー性疾患の罹患率は、生後1年間に同居するペットの数が多いほど減少し、**犬と猫によってアレルギーの発症から保護される「ミニ農場」効果**が示唆されると述べています。

これから言えることは、**生まれた時にすでにペットがいる家庭では、犬や猫のアレルギーになり難い**ということです。

しかし、私の日頃の印象では、犬猫のアレルギーがある患児は、やはり家庭で犬猫を買っている子が多いように思われます。昔からペットを飼っている家庭は、遺伝的にペットアレルギーになり難い体質が元々ある人達では？と思っていますが・・・。

(たまなは)

